

ワイキキに1カ月滞在 ロングステイを本格的に体験しよう

リーダー：田中 嘉文（横浜市）

滞在期間：2013年6月3日～2週間、1カ月間

参加者：計11名

費用：現地集合につき、現地までの航空機代各自

部屋代：2週間の場合：1泊／1部屋 \$180

1カ月の場合：1泊／1部屋 \$140

* 税金、退出時のクリーニング代込

ハワイは、海外ロングステイ地として常にトップの人気を得ています。ところが、実際に日本人ロングステイヤーが集まるのはマレーシア、タイなどアジアに集中しています。「ハワイは物価が高く、観光客で賑わうリゾートは生活に向かないのでは」という認識が一般的のようです。

そこで今回、ハワイでは一体どうなのか体験してみたいと思って、このロングステイを企画しました。夫婦参加が3組、女性同士が2組、それに単身で男性1人、計11人というメンバーでした。滞在期間は夫婦1組と女性同士1組が2週間滞在、他の皆さんは丸1カ月滞在でした。さて結果はどうだったのでしょうか。

1. 滞在するコンドミニウム（略してコンド）

ワイキキの中心に位置する「ロイヤル・クヒオ」を選びました。ワイキキの中心という絶好のロケーション、長期滞在に必要な室内・館内設備が整っているなどの理由で、Aクラスのコンドですから、参加者は基本的には不自由なく過ごされたと思います。ただし、室内テレビで日本語放送にチャンネルを合わせる方法が難しく、慣れるまで苦労されたようです。また、ある部屋はチェックインに時間がかかり、ベッド、浴室、室内電話に不具合があって、完全回復に数日かかるというトラブルもありました。

コンドに慣れない皆さんが一様に戸惑われたのは、ホテルとの根本的な違いです。コンドは日本のマンション方式ですから、1部屋ごとにオーナーが違います。オーナーから管理を委託されている代理人も異なります。従って、ホテルのように室内の設備が統一されているわけではなく、トラブル対処法も違います。すぐに別の部屋に取り替えるということもできません。事前の説明会でもお話ししましたが、もう少し詳しく説明しておく必要があったと、リーダーとして反省しています。部屋代はマレーシア等に比べれば間違いなく高いといわざるを得ないでしょう。

2. 毎日の行動、楽しみ方など

個人個人が自由に毎日を過ごすのがロングステイの基本ですから、私がリーダーとはいえ、みなさんの毎日の行動を把握するのは無理です。数日間も声も聞かない、お顔も見ない人がほとんどでした。

時々ワイキキの通りで出会ったり、あるいは最後の夕食会で皆さんから聞いたお話を総合すると、行動パターンも楽しみ方もマチマチでした。概していえば、ハワイの良さ（気候や生活環境など）をノンビリ・ゆっくり味わいながら、何をして過ごすかはその日の気分次第、という人は思いのほか少なかった。むしろ数日先までの計画を立てて準備する人が多かったようです。何度目のハワイかにもよりますが、やはりそこは世界有数のリゾート観光地。多種多彩なアクティビティがふんだんにありますから、長い滞在時間を有効に使って、いろいろ行ってみよう、体験しよう、と元気に行動された人が多かったと思います。

特筆すべきは、北海道・苫小牧から単身参加の佐竹さん。毎朝のジョギングを欠かさず、数回のゴルフ、市バスを使っての遠出、セスナ機の操縦体験、地元ハワイシニアライフ協会のイベントに参加、そして2泊3日でマウイ島に出かけ、レンタカー（憧れのオープンカー）で島内を巡り、標高3,000mのハレアカラ山でサンライズを鑑賞等々、実に多忙な毎日を元気に楽しまれていました。



早朝、地元の気功の会に参加

その反対が、90歳の保倉さんご夫妻。滅多にお目にかかることはありませんでしたが、ある日の午後、元気で歩くご主人と出会いました。イキな帽子をかぶり、半ズボンにアロハシャツ姿で、これからビーチに行くとか。奥様は？と尋ねると、部屋で午睡中。完全マイペースのスローライフを満喫されていました。

思い思いに、気楽に毎日が過ごせる。それがハワイの一番の魅力です。

3. みんな一緒に

せっかく WSC の 11 人が一緒ですから、時にはみんなで楽しい時間をと、ミニバスをチャーターして 1 日観光に出かけました。不肖私がガイド役です。コースは東回り。前半はほとんど海岸線に沿って、ハワイの田舎を走ります。既に何度目かのハワイという方も、「初めてハワイの田舎風景を見ました。面白〜い」との感想も聞こえてきました。

ホノルルから山を越えて、島の真裏に当たるカネオへの大きな街、映画「ジュラシック・パーク」の撮影場所として有名になったクアロア・ランチを過ぎて、最北部のカフクに近づくと、道に沿ってエビを養殖する沼が並び、そのエビを食べさせる小店が幾つかあります。一番有名な「ロミーズ」でランチにしました。



やっと出てきたエビにご満悦の面々

大きな車エビを殻付きのままガーリック・バターで炒めたシンプルなメニューが売り物です。着いたのがちょうどお昼前。案の定、平日にもかかわらず 20 人くらいが列を作っていました。30 分以上は待たねばなりません。でも絶対にここでエビを食す、と決めていたので待つことに。皆さんは吹き抜けの小屋の中のテーブルに陣取って、賑やかに談笑しながら時を待ちます。でも 40 分過ぎてもまだまだ。次第に皆さんは口数も減り、険しい表情になってきました。

そしてやっと 11 人分のランチプレートが出てきた時は 1 時間を過ぎていました。ふたを開けると歓声が上がりました。真っ赤な 8 匹くらいのエビがガーリックの香ばしい香りに包まれ、白いご飯とハワイ定番のマカロニ・サラダが付いています。皆さんは指を赤く染めながら、殻むき作業に夢中です。よほど待ちくたびれ、空腹だったのでしょう。真の食事時間は 10 分余りのことでした。

もう一度皆さんで集まったのは、夕食です。コンドでの自炊や手軽なファーストフードに飽きてきたころ、一応正装して高級和食レストランに出かけました。ワイキキの東の端のホテルニューオータニにある「都レストラン」。歴史があって地元の人にも愛され、素晴らしいサンセットを楽しめることで知られています。

久しぶりのまともな(?) 和食に皆さんの心が和んだ様子で、それまでの毎日の出来事などでお話が弾んでいました。



最後の夜、ハワイアンドリンクで乾杯

4. 本当のロングステイとは? (まとめ)

普通のツアーパターンより滞在時間の長いメリットを生かして、思いっきり楽しむことも魅力的な旅の形と言えるでしょう。しかし本来のロングステイは、現地の生活様式や習慣の中で暮らしてみることです。ハワイの場合は、目的によって宿泊施設を選ぶことが大切です。観光主体の長期滞在にコンドは不向きです。レストランがないから食事は自炊、部屋の掃除もゴミ出しも自分でやらざるを得ません。一方、暮らし感覚のロングステイにはホテルは向きません。費用がかさむ上、メイドの掃除時間は部屋を空けなければならないなど、ホテルではかえって不自由です。

マレーシア等に比べて費用がかかることは否めません。しかし滞在中の楽しみの大きさ、気候的な心地良さ、一人歩きも安心な治安の良さなどを勘案すると、ハワイの魅力はお金にかえられないと思います。

もう一点、長期滞在は個人単位が基本とはいふものの、やはり頼れる人が近くにいないと不安です。たとえ些細なトラブルでも、すべて自分自身で処理するのは難しいし、煩わしくもあります。そうした必要ときに必要なサポートを得られるというのはとても大事なことで、今回は WSC ハワイ・サポートセンターを活用された人も多かったようです。

そして、通常の観光旅行以上に、ロングステイは目的地、宿泊など必要な素材の選別、日々の過ごし方などに、しっかり配慮した計画を立てることが、非常に大切であることを、参加された皆さんは体験されたと思います。それを一度身をもって体験すれば、次はどこに長期滞在してもマイペースで過ごせることでしょう。